2021年3月期 第2四半期決算説明会

- 1. 第2四半期決算の概要(連結)
- 2. 通期の業績見通し
- 3. 当社の経営戦略
- 4. 新長期ビジョン BEACON 2030 2020年11月10日

日本光電工業株式会社

証券コード: 6849 https://www.nihonkohden.co.jp

Fighting Disease with Electronics

NIHON KOHDEN

- 新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、 日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆様に、 心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。
- 医療機器メーカとしての社会的な使命を果たすために、 日々奮闘している社員、たくさんの激励をくださいました株主の皆様に 心から感謝いたします。

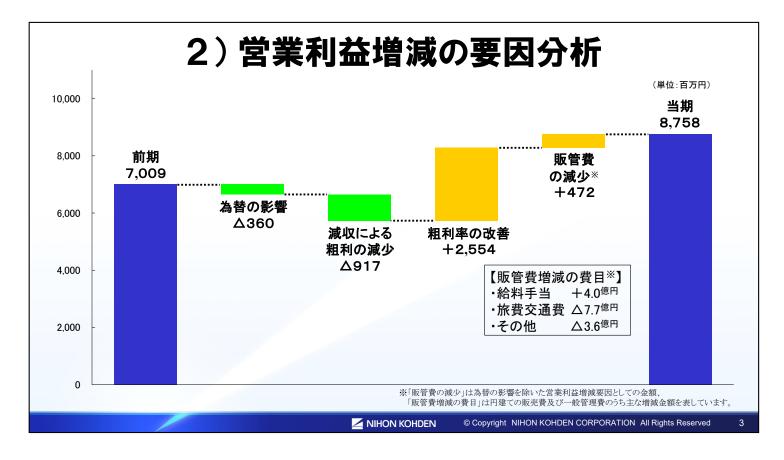
1 第2四半期決算の概要(連結)

NIHON KOHDEN

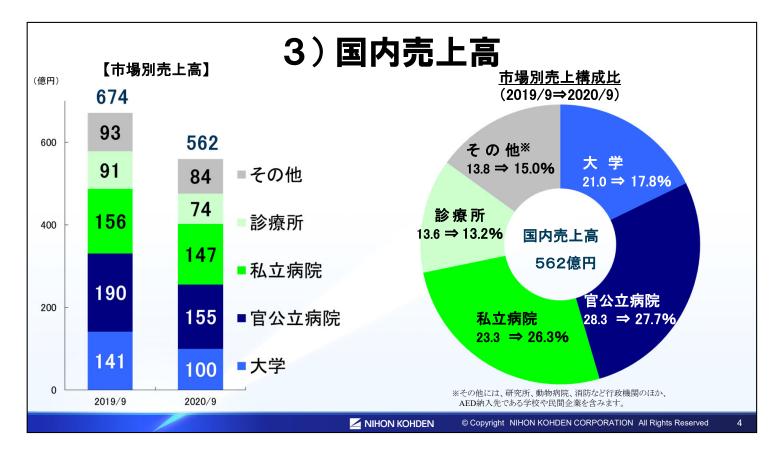
1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計(2020/9)		(単位:百万円、単位未満切捨て)		
	(2019/9)	実績	対前年同期 増減率(%)			
売 上 高	89,735	87,240	Δ 2.8			
国内売上高	67,445	56,248	△ 16.6			
海外売上高	22,289	30,992	39.0°	← 為替影響除く: +43%		
売 上 総 利 益 (売上総利益率)	43,354 48.3%	·	2.3	← 自社品 2019/9 2020/9 売上比率: 64.3% → 69.0%		
営業利益 (営業利益率)	7,009 7.8%	·		販管費: 363 ^{mm} → 355 ^{mm} 販管費率: 40.5% → 40.8%		
経常利益	6,334	8,215	29.7 ⁻	← 為替差損: 855 ^{百万円} → 825 ^{百万円}		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,943	5,826	47.8			
平 均 レ ー ト 1 米 ド ル	(2019/9) 109.2円	(2020/9) 106.9円				
1	121.9円	121.3円				
✓ NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved 2						

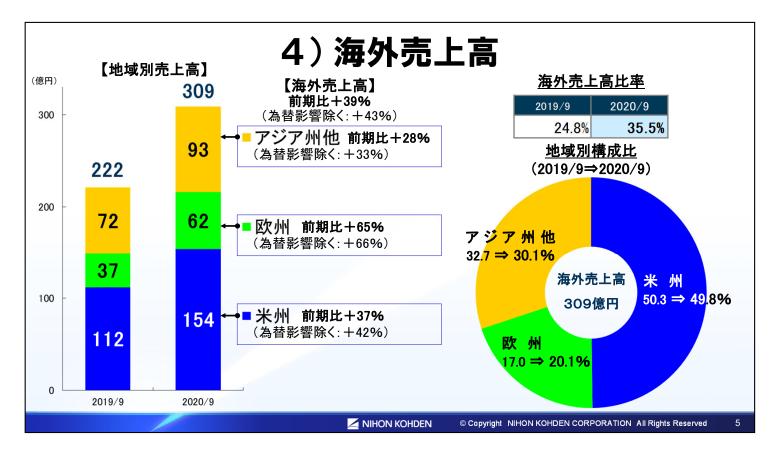
- 売上高は、2.8%減の872億円となりました。国内売上高は、16.6%減の562億円、海外売上高は、39.0%増の309億円、 現地通貨ベースでは、43%の増加となりました。
- 上期の計画は公表を見送りましたが、社内計画に対しては、 国内、海外ともに、上回って推移しました。
- 粗利率は、自社品比率が上昇したことから、 2.5%ポイント増の50.8%となりました。
- 営業利益は、粗利率の改善と販管費の減少により、 24.9%増の87億円となりました。
- 経常利益は29.7%増の82億円、 純利益は47.8%増の58億円となりました。



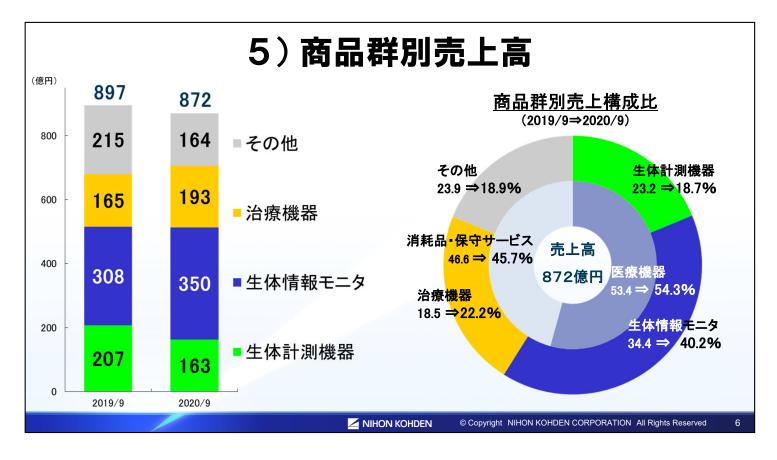
- 営業利益が、前期の70億円から87億円に増加した要因について、 ご説明します。
- 為替の影響は、3億円のマイナス要因となりました。
- 減収による粗利の減少は、9億円となりました。
- 粗利率の改善につきましては、自社品比率の高い海外が好調だったこと、 国内では、自社品販売の注力により売上構成が良化したことから、 25億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、営業活動の制限による旅費交通費などの減少により、 4億円のプラス要因となりました。



- 国内売上高は、112億円減の562億円となりました。
- 前年同期の消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動から、 全ての市場で減収となりました。大学、官公立病院市場では、 前年同期の新築移転に伴う大口商談の受注の反動も影響しました。 反動減の影響は、合わせて70億円から80億円程度あったと見ています。
- 新型コロナウイルスについては、40億円程度のマイナス影響があったと見ています。検査・手術・入院の延期や、生体計測機器など一部製品に対する予算執行の延期・凍結が影響しました。一方で、補正予算の寄与もあり、人工呼吸器の需要が増加したことから、社内計画を上回りました。



- 海外売上高は、87億円増の309億円となりました。
- 感染症患者の増加に伴い、生体情報モニタ、人工呼吸器の需要が急増し、 全ての地域で社内計画を上回りました。
- 米州は42億円増の154億円、現地通貨ベースでは42%増加しました。 米国、中南米ともに二桁成長となり、中南米は、メキシコ、ブラジル、コロンビアで 売上を大きく伸ばしました。
- 欧州は25億円増の62億円、現地通貨ベースでは66%増加しました。西欧諸国を中心に大幅増収となり、特にイタリア、イギリスが好調でした。
- アジア州他は21億円増の93億円、現地通貨ベースでは33%増加しました。 ベトナム、カタール、インドネシアでの大口商談の受注が寄与しました。 中国では、感染収束に伴い、第2四半期に入って感染対策による需要は 一巡しています。



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体情報モニタや、人工呼吸器を含む治療機器は大きく伸びましたが、 それ以外の生体計測機器やその他商品群は需要が鈍化し、 前年同期を下回りました。
- 消耗品・保守サービスの売上構成比率は、45.7%となりました。国内で検査・手 術が延期されたことから、カテーテル、SpO₂センサ、電極などの消耗品の売上が 減少しました。

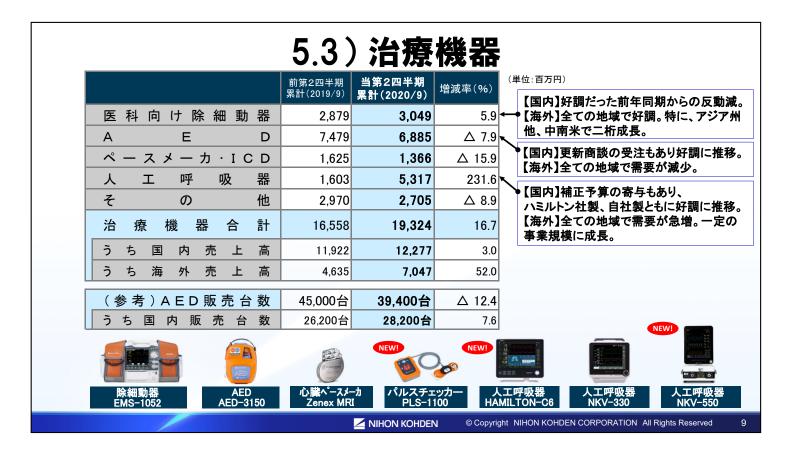
5.1) 生体計測機器 前第2四半期 累計(2019/9) 当第2四半期 累計(2020/9) (単位:百万円) 増減率(%) 脳 神 系 2.666 △ 26.3 経 群 3.620 雷 心 計 群 3.380 2.962 △ 12.4 心臓カテーテル検査装置群 8,204 6.907 △ 15.8 その他(診断情報システム等)※ 5.577 3.814 △ 31.6 検査・手術の減少や予算執行の延期・凍結も あり、全ての商品が二桁減収。 生体計測機器合計 20,782 16.350 \triangle 21.3 COVID-19軽症者対策のため、 パルスオキシメータ、LAVITAの需要は増加。 う ち 玉 内 売 上 高 16,627 12,625 △ 24.1 脳神経系群が米州、アジア州他で低調。 う 上 3,724 △ 10.4 ち 海 売 4,155 心電計群は全ての地域で好調に推移。 ※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。 心電計 ECG-3150 © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved NIHON KOHDEN

- 「生体計測機器」は、全体で、21.3%減の163億円となりました。
- 国内は、24.1%減の126億円となりました。検査・手術の減少や予算執行の 延期・凍結もあり、全ての商品が二桁減収となりました。一方で、新型コロナ 軽症者対策のため、パルスオキシメータやLAVITAの需要は増加しました。
- 海外は、10.4%減の37億円となりました。脳神経系群は需要の減少に伴い、 米州、アジア州他で低調に推移しました。一方で、心電計群は、新型コロナ対策 による需要もあり、全ての地域で好調に推移しました。

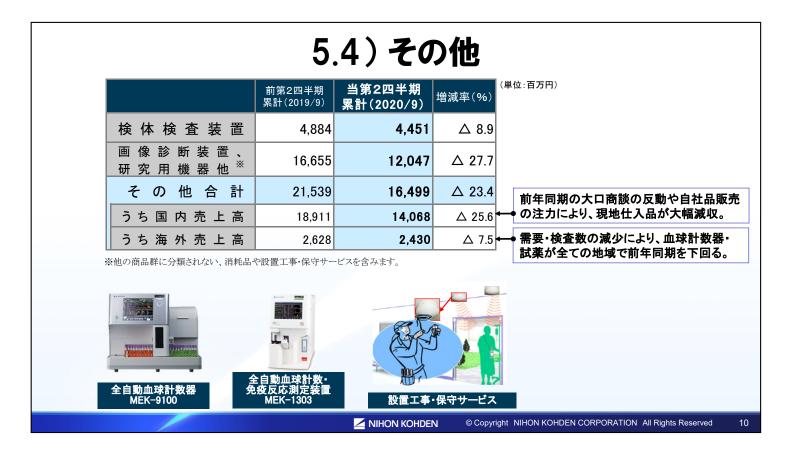
5.2) 生体情報モニタ



- 「生体情報モニタ」は、全体で13.6%増の350億円となりました。
- 国内は、13.6%減の172億円となりました。前年同期が好調だった反動により、 臨床情報システム、ベッドサイドモニタが大きく減少しました。一方で、医用テレメ ータは、新製品効果に加え、新型コロナ対策もあり好調に推移しました。
- 海外は、63.7%増の177億円となり、全ての地域で大きく増加しました。 特に、欧州、中近東、中南米で売上が倍増しました。



- 「治療機器」は、全体で16.7%増の193億円となりました。国内は3%増の122億円、海外は52%増の70億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内は好調だった前年同期から反動減となりましたが、 海外が全ての地域で好調に推移したことから、5.9%増の30億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で39,400台、売上は7.9%減の68億円となりました。 国内は更新商談の受注もあり好調でしたが、海外の全ての地域で需要が減少しました。
- 人工呼吸器は、国内、海外ともに好調に推移し、前年同期の16億円から53億円 に大きく増加しました。国内は、ハミルトン社製、自社製ともに好調に推移しまし た。海外は、全ての地域で需要が急増し、一定の事業規模に成長しています。



- 「その他商品群」におきましては、全体で23.4%減の164億円となりました。
- 国内は、25.6%減の140億円となりました。前年同期の大口商談の反動や自社 品販売の注力により、現地仕入品の売上が大きく減少しました。
- 海外は、7.5%減の24億円となりました。血球計数器・試薬が、需要および検査数 の減少により、全ての地域で前年同期を下回りました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2020/3	当第2四半期末 2020/9	増減額		前期末 2020/3	当第2四半期末 2020/9	増減額
流動資産	129,020	128,958	△ 62	流動負債	40,319	36,081	△ 4,238
たな卸資産	29,249	36,303	7,054	有利子負債	350	350	_
有形固定資産	20,003	20,014	10	固定負債	5,692	5,577	△ 115
無形固定資産	4,149	3,883	△ 266	純 資 産	121,774	126,853	5,078
投資その他資産	14,612	15,656	1,043				
資 産 合 計	167,786	168,512	725	負債・純資産合計	167,786	168,512	725
たな卸資産回転月数	3.7ヵ月	4.9ヵ月		自己資本比率	72.6%	75.3%	

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 総資産は7億円増加し、1,685億円となりました。
- 生体情報モニタ、人工呼吸器の増産に伴い、たな卸資産が70億円増加しています。

7) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

		前第2四半期	当第2四半期	2020/3	2021/3予想				
					累計(2019/9)	累計(2020/9)	前期実績	期初	11月6日修正
設	備	投	資	額	1,609	1,472	3,549	3,900	3,900
減	価	償	却	費	1,695	1,496	3,597	3,600	3,600
研	究	開	発	費	3,162	3,069	6,731	7,000	7,200

●2021/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備(需要の増加に伴う人工呼吸器2機種・生体情報モニタの生産増強を含む)

【期初計画と11/6修正計画との差異】 ・研究開発費+2億円: 長期ビジョンで掲げる デジタル技術の開発を加速



<人工呼吸器・生体情報モニタの増産支援>

- 人工呼吸器の架台 1,000台供給 (本田技研工業)
- 人工呼吸器・生体情報モニタ 生産工程の改善指導 (TPS(トヨタ生産方式)支援チーム)







✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 設備投資、減価償却費はともに14億円となりました。研究開発費は30億円となりました。
- 通期につきましては、設備投資は39億円、減価償却費は36億円で変更ありません。研究開発費は72億円に見直しました。長期ビジョンで掲げるデジタル技術の開発を加速させます。
- 富岡生産センタでは、ご覧のとおり、各方面からのご支援をいただき、 増産を進めています。

通期の業績見通し

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1)経営環境 内 海 外 🗘 生体情報モニタ、人工呼吸器の商談が ■5月末まで不急の営業・サービス活動 大幅増 を自粛、オンライン営業活動を開始 Ŀ 🗅 脳波計や血球計数器の需要が減少 🗅 カテーテル・ペースメーカ・ICD売上 期 PAD市場でのAEDの需要が減少 Q1: △23% → 上期: △16% (前年同期比) 登注案件で一部キャンセル発生、 🗘 COVID-19対応の補正予算を受け、 第2波の欧州で、生体情報モニタ、 人工呼吸器、医用テレメータ等の 人工呼吸器の新たな問い合わせ 商談が増加 集中治療体制の強化・整備 患者の 医療機関の収益回復に 下 受診抑制 時間がかかる見通し 政府予算の縮小・ 経済の 期 設備投資抑制の懸念 停滞•悪化 ➡COVID-19対応以外の一部商談で、 予算執行の延期・凍結の見通し 🛑 Q4以降、反動減が発生する見通し

国内、海外ともに、感染再拡大の状況を注視

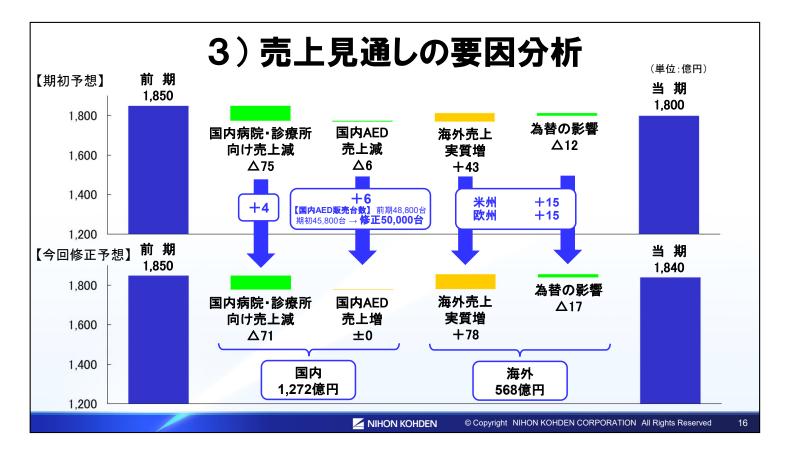
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

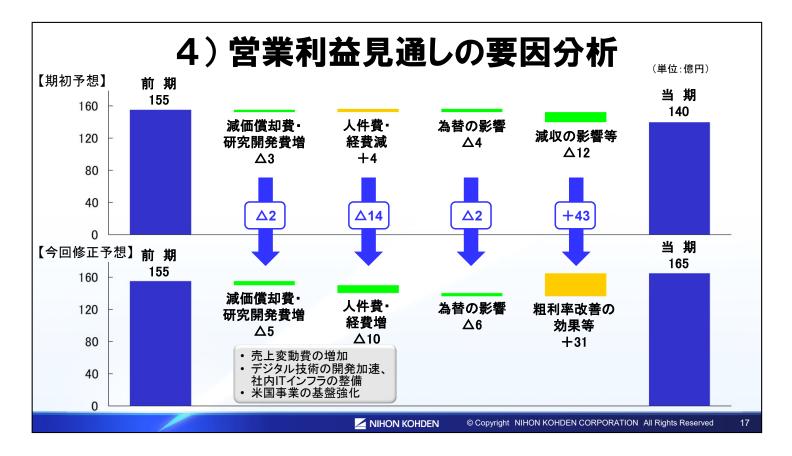
- 国内では、延期されていた検査・手術が徐々に再開されているほか、補正予算の 投入により、人工呼吸器や医用テレメータなどの商談が増加しています。 一方で、患者の受診抑制や入院・手術の減少が続き、医療機関の収益回復には 時間がかかる見通しです。新型コロナ対策以外の一部商談では、予算執行の延 期や凍結が見られます。
- 海外では、人工呼吸器の受注案件で、一部キャンセルがありました。足元では、 第2波に直面する欧州で、新たな問い合わせが発生しています。需要が減少した 脳波計や血球計数器、AEDは、下期での回復を期待するものの、上期を補うに は至らないと見ています。また、期初の想定どおり、第4四半期以降に反動減を 見込んでいます。
- 国内、海外ともに、感染再拡大の状況を注視しています。

2) 通期の業績見通し 2020/3 2021/3予想 増減率 (単位:百万円) 前期実績 期初 11月6修正 (%) 売 上 高 185.007 180,000 184.000 △ 0.5 国内壳上高 134,355 126,200 **127,200** △ 5.3 海外売上高 50,651 53,800 56,800 12.1 為替影響除く: +15% 売 上 総 利 益 89,325 87,200 91,300 2.2 (売上総利益率) 48.3% 48.4% 49.6% 業 利益 15,503 14,000 16,500 6.4 【地域別海外売上高】 (営業利益率) 8.4% 7.8% 9.0% 2020/3 2021/3予想 増減率 常 経 利 益 14,846 14,000 16,500 11.1 (%) 前期実績 11月6日修正 米 州 24,731 26,600 28,100 13.6 親会社株主に帰属する 9,854 10,000 11,000 11.6 当期純利益 欧 州 9,044 8,800 10,300 13.9 海外売上高比率 27.4% 29.9% 30.9% アジア州他 16,876 18,400 18,400 9.0 平均レート (下期) 海 外 計 50.651 53.800 56.800 12.1 109.1円 107円 106円 106円 121.1円 117円 122円 124円 ※2021/3期から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。 ✓ NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 上期の実績が社内計画を上回ったことから、通期の業績見通しを上方修正いたしました。
- 連結売上高は前期比0.5%減の1,840億円、国内売上高は5.3%減の1,272億円、海外売上高は12.1%増の568億円、現地通貨ベースでは15%の増加を見込んでいます。
- 国内売上高は、期初予想から10億円増加する見通しです。海外売上高は、全ての地域で期初予想を上回ると想定しており、30億円増加する見通しです。特に、人工呼吸器の需要が想定よりも強く、今回の見直しに至りました。
- 営業利益につきましては、減収幅の縮小および粗利率の改善により、期初予想から25億円増の165億円となる見込みです。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは106円、ユーロは124円としています。



- 国内の病院・診療所向けは、上期が社内計画を上回ったことから、71億円の減少に見直しました。同様に、AEDの通期売上は前期並み、販売台数は50,000台に見直しました。
- 海外売上高は、期初予想に対し、米州が15億円、欧州が15億円、上振れすると見ており、78億円の実質増を見込んでいます。為替につきましては、17億円のマイナス影響を見込んでいます。



- 上期に大幅増益を達成したため、デジタル技術の開発加速や社内ITインフラの整備など、長期ビジョンの実現に不可欠な戦略投資を実施します。また、海外事業のさらなる拡大を目指し、米国での事業基盤の強化に取り組みます。
- これにより、減価償却費・研究開発費は5億円増加、人件費・経費は10億円増加 に見直しました。
- 為替は6億円のマイナス影響、粗利率改善によるプラス効果は31億円と見込んでいます。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2020/3 2021/3予想			2021/3予想		増減率(%)	
		前期実績	期初	11月6日修正	構成比(%)	· 追测平(%)	
生体計測	則機器	42,273	37,200	36,800	20.0	△ 12.9	
生体情報	モニタ	64,966	68,500	70,000	38.0	7.7	
治療	機器	34,512	35,800	39,800	21.6	15.3	
そ の	他	43,254	38,500	37,400	20.4	△ 13.5	
売 上 高	合 計	185,007	180,000	184,000	100.0	△ 0.5	
(ご参考)							
消耗品・保守	サービス	84,160	82,200	81,500	44.3	△ 3.2	

為替感応度の概算値(年間)

			売上高	営業利益
米	ド	ル	3.4億円	0.7億円
ュ	_		0.7億円	0.3億円

✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績を踏まえ修正しました。
- 為替感応度はご覧のとおりです。



1) COVID-19対応の基本方針

- 1. 従業員およびその家族の健康維持・安全確保を最優先とする
- 2. 医療体制の維持のため製品とサービスの供給責任を果たす



2020年2月 上海 社員が防護服を着用の上 生体情報モニタなどを納品



2020年4月 スペイン 人工呼吸器 NKV-550を納品



2020年6月 ロンドン 人工呼吸器 NKV-330を納品



2020年6月 スコットランド 人工呼吸器 NKV-550を納品

✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 2020年度は、従業員とご家族の健康と安全の確保、医療機器メーカとしての供給責任を果たすことを基本方針に、事業活動を推進しています。
- 世界各国で感染予防対策を徹底しながら、製品・サービスの供給に尽力している 社員を誇りに思うとともに、心から感謝をしています。
- 医療現場の最前線で新型コロナ対策に尽力されている医療従事者の皆様のサポートに引き続き最優先で取り組みます。

2) 当期の取り組み

既存事業における収益性の改善

新製品発売 スケジュールの<u>遵守</u>

✓ 開発効率の向上に 向けた取り組みを強化



海外事業のさらなる成長

- ✓ 生体情報モニタ、人工呼吸器の設置ベース拡大
- ✓ 消耗品・サービスの 提案に注力



国内事業における 顧客価値提案の推進

✓ オンラインセミナー開催



✓ 会員制ウェブサイト コンテンツの充実



kohden plus+

✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「既存事業における収益性の改善」に向けた取り組みをご説明します。
- 新製品の発売スケジュールを遵守することは、前中期経営計画からの課題ですが、4月から技術開発部門を機能別組織体制に移行し、開発効率の向上に取り組んでいます。
- 海外では、生体情報モニタ、人工呼吸器の設置が拡大していることから、消耗品・ サービスの提案に注力し、安定した収益基盤の構築を進めます。
- 国内では、コロナ禍における顧客価値提案を推進するため、オンラインセミナーの開催や会員制ウェブサイトのコンテンツ充実に取り組みます。

2) 当期の取り組み

グローバルでの企業体質の強化

ガバナンス・経営管理体制 の強化

2020年4月

✓ 海外子会社におけるリスク管理の 監督を強化



2020年6月

- ✓ 女性社外取締役1名を選任
- ✓ 役員報酬に譲渡制限付株式報酬 制度を導入

IT活用によるサプライチェーン マネジメントの向上

✓ ERPのグローバル展開– 当期はシンガポールに導入



✓ 国内電子取引の推進・拡大

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「グローバルでの企業体質の強化」については、ガバナンス・経営管理体制の強化に向けて、4月にグローバル経営管理本部を設置し、海外子会社におけるリスク管理を強化しています。また、女性社外取締役を1名選任するとともに、役員報酬に譲渡制限付株式報酬制度を導入しました。
- サプライチェーンマネジメントの向上に向けては、シンガポールでERPの導入を 予定しているほか、国内販売で電子取引を推進し、業務のスリム化を図ります。

3) 地域別事業展開の強化

日本

COVID-19 対策

診療実績

「医療安全」「診療実績」「業務効率」につながる顧客価値提案

✓ 院内:病室外でのモバイル端末に
✓ 宿泊療養施設:別室での容態把握を よる参照をサポート





✓ 感染予防ディスポーザブル消耗品の

推奨 110

血圧カフ





✓ esCCOの提供を開始

※ esCCO: estimated Continuous Cardiac Output (非侵襲連続推定心拍出量)







timated

新たなコードが不要のため、測定が簡単、追加コストも発生せず NIHON KOHDEN

・感染症の恐れが低く、痛みを伴わない

・心電図とSpO2脈波を使って推定

- 「地域別事業展開の強化」ですが、国内では、新型コロナ対策として、患者さんの 状態を病室の外からモバイル端末で参照できるソリューションの提案を強化しま す。新製品の医用テレメータ WEP-1200は、人工呼吸器とのデータ・アラーム連 携を実現し、医療安全への寄与を期待しています。
- 軽症者向け宿泊療養施設には、LAVITAを使って別室から患者さんの容態を把握 できるシステムを構築し、評価をいただいています。
- 新たに投入した超音波ゲルソニックをはじめとする、ディスポーザブル消耗品の 提案にも注力しています。
- esCCOについても、国内展開を開始しました。非侵襲で連続的に心拍出量を算 出する当社独自の技術であり、顧客価値の向上につながると期待しています。

米国

COVID-19対策プログラムの提供

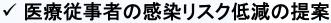
✓ NK-HealthProtect™の提案 🚥



* Prefense® Early Detection and Notification System:











✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

米国では、新型コロナ対策のためのプログラムであるNK-HealthProtectを展開 しています。

「患者トリアージソリューション」は、スポットチェックモニタで体温やSpOっを測定 できることから、感染症患者のスクリーニングへの活用が期待されます。 「緊急時無線モニタリングソリューション」は、多人数モニタであるPrefenseを 使って、バイタルサインを把握できるため、多くの患者さんで混雑する救急外来を サポートします。

「Pop-up ICUソリューション」は、ベッドサイドモニタとセントラルモニタで構成 され、ICUの迅速な増設を可能にします。

- その他にも、医療従事者の感染リスク低減に向けた提案を強化します。
- 人工呼吸器 NKV-550は、ハーバード大学マサチューセッツ総合病院にも採用い ただき、今後の波及効果を期待しています。



- 新興国では、新製品として、上海で開発・生産した心電計のラインアップを追加したほか、検体検査装置の新製品3機種を投入しました。
- MEK-1305は、赤血球が沈む速さであるESRを同時に測定できる世界初の血球計数器です。ESRは、結核などの感染症のスクリーニングに使われています。従来の方式では、検査時間が30分かかっていましたが、2分という短時間での測定を実現しました。また、好中球と好リンパ球の比率であるNLRは、新型コロナウイルス感染症の重症化予測にも使われていることから、3機種全てに搭載しました。
- ドバイの試薬工場は、計画どおり、2020年度中に生産開始する予定です。

4) 利益配分の基本方針

将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮

研究 開発



・持続的成長に 向けた 製品•技術開発

設備 投資



•人工呼吸器. 生体情報モニタ 増産体制の構築 情報基盤の整備

M&A 提携



・新たな成長機会の

人財 育成

・人財の獲得、育成 など

株主

長期安定配当 を継続

目標:連結配当性向 30%以上

配当重視

自己株式の取得は 機動的に検討

年間配当金

20/3期:

35円(配当性向:30.2%) 21/3期(予定): 35円(配当性向:27.1%)

自己株式保有:356万株

(持株比率:4.0%)

✓ NIHON KOHDEN

- 利益の配分につきましては、将来に向けた成長投資を継続します。
- 研究開発では、既存事業の持続的成長に向けた製品・技術の開発に注力しま す。設備投資については、増産体制の構築に加え、IT投資を予定しています。 M&Aでは、引き続き、新たな成長領域を探索します。人財育成も強化していき ます。
- 株主還元につきましては、長期にわたって安定的な配当を継続することを基本方 針としており、配当性向は30%以上を目指しています。配当を重視しており、自己 株式の取得につきましては、機動的に検討します。
- 当期の年間配当金は35円、配当性向は27.1%の予想です。

4 新長期ビジョン BEACON 2030



長期ビジョンの名称について

ビジョンステートメントのキーワードが「てらす」であること、 日本光電の社章が燈台の光を表すことから、 BEACON(ビーコン) 2030 と名付けました。

「病める人のための光とも、手立てともなろう」という想いを込めています。

ロゴについて

ビジョンステートメントのキーワードである「てらす」を光の広がりに見立て、それが大きな光の翼となり、未来に向かって飛躍していく様子を表現しました。

また、モチーフとした翼は、創業のきっかけである小鳥の翼のエピ ソードから着想しました。

配色は、光の三原色をベースに、長期ビジョンを実現するための3 つのフェーズとイメージを重ねました。

長期ビジョンが出来るまで

新長期ビジョンの検討にあたっては、日本光電の将来に対する社員の想いを形にするため、パネルディスカッションなど全社員を巻き込む活動を推進しました。こうした活動で得た意見・アイデアを理解した上で、経営層と次世代リーダが議論を重ね、**BEACON 2030**を策定しました。



✓ NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- ▶ 9月に公表しました、長期ビジョン「BEACON 2030」についてご説明します。
- 長期ビジョンの策定にあたっては、約30名の次世代メンバーを中心にプロジェクトを進めるとともに、グローバルで34回、合計3,000名の社員とパネルディスカッションを開催しました。
- 世代や文化の違いを越えて、世界中の社員が共通に想い描く、 2030年に向けて日本光電が目指すべき姿を形にしたものです。

ビジョン・ステートメント - 2030年 日本光電のあるべき姿

Illuminating Medicine for Humanity

グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する

1. 人に寄り添い、医療の未来をてらす。

臨床知識に裏づけされた課題解決力を活かし 世界の患者さんと医療従事者に深く寄り添いながら 患者アウトカムと医療経済性を追求するパートナーとして より良い医療の未来をてらしていきます。

2. 新たな価値を共創し、命をてらす。

人と機器をつなぐHMI※技術を中核に 医療現場から得られるデータを活かし 患者さんに最適なケアサイクルを実現することで 一人ひとりの命をてらしていきます。

3. 挑戦を楽しみ、人と組織の可能性をてらす。

社員一人ひとりが医療に貢献するやりがいと誇りを持ち 世界中の仲間たちと自由闊達で創造的なチームをつくりながら グローバルな医療課題に挑み続けることで 人と組織の可能性をてらしていきます。

※ HMI(ヒューマン・マシン・インターフェース): 人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称

BEACON

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

ビジョン・ステートメントには、日本光電は医療、技術、人を礎として、医療機器を 提供する企業からグローバルな医療課題を解決する企業へと進化していくこと、 そして、これまで以上に社会の発展に貢献する企業に成長すること、その強い想 いが込められています。

2030 VALUE CREATION COMPASS

価値共創の羅針盤 **KEY CONCEPT**

●患者アウトカムと医療経済性

私たちが目指す価値創造は、世界共通の医療課題である患者アウトカムと医療経済性の 向上を実現することです。

●疾患別・サイト別ソリューション

私たちは疾患別・サイト別の視点で検査から診断・治療・予後に至るまで、患者さん一人 ひとりに最適なケアサイクルソリューションの提供を目指します。

●HMI技術と医療機器

「グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する」

「患者アウトカムと医療経済性の追求」

PHYSICAL

インテリジェント 素を現在 コネクテッド 奈

HMIは、患者さんと医療とを結びつける大切な接点であり、日本光電のコア・テクノロジーです。私たちが長年培ってきたHMI技術と医療機器(モダリティ)は、患者さんと医療現場 へのアクセスを生み出す価値創造の基盤です。

●新たな価値創造~医療現場のデータから価値を生み出す~

新たな価値創造の領域として「情報から価値を生む」ためのデータ統合プラットフォームの

新たな価値関連の領域として「情報がら価値を主む」ためのデータ続音ブブットフォームの 構築とアルゴリズムの開発に取り組みます。 バイタルサインデータとIoTデータを用いて、電子カルテ等の情報も集約し、ビッグデータを 活用するためのプラットフォームを構築します。そして、AIやデータ分析から予知予測等の 臨床価値の高いアルゴリズムを開発します。

-ズに応えるリアルタイムループ

医療現場で使われているHMI技術と医療機器、そしてビッグデータ解析から生み出された 新たなアルゴリズムを結び付け、臨床ニーズにリアルタイムに応えることのできるソリュー ションを提供します。

BEACON

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 日本光電がどのように新たな価値を創造していくのかを示したものが、「価値共創 の羅針盤」です。
- 私たちの価値創造の中心にいるのは、常に人、患者さんです。患者さんとの接点 であるヒューマン・マシン・インターフェース技術から得られるデータに、AIなどの データサイエンスを活用し、新たなアルゴリズムを生み出します。その結果を、リ アルタイムにフィードバックすることで、患者さんに最適なケアサイクルソリューシ ョンを実現します。そして、疾患別・サイト別のソリューションを提供することで、患 者アウトカムと医療経済性を追求し、グローバルな医療課題の解決に貢献してい きます。

長期ビジョンの実現に向けた3つの変革

今後10年における全社経営方針として実現すべき「3つの変革」を掲げます

1 グローバルな高付加価値企業への変革

- ・ 海外事業の高成長と収益性向上を主軸とした事業戦略の推進
- ・国内事業における価値提案の高度化および新規事業の育成
- ・ グローバルな事業基盤を活用した新たなビジネスモデルの創出

2 顧客価値を追求するソリューション型事業への変革

- ・ 医療の課題を解決するビジネスモデルへの変革
- ・ HMIを核としてデータから価値を生み出す価値創造モデルの実現

3 オペレーショナルエクセレンスを軸とするグローバル組織への変革

- ・ 全社戦略に基づく組織体制およびガバナンス体制の確立
- ・ グローバルサプライチェーンマネジメントを軸とする開発・生産・販売体制の確立
- ・ 重要な組織機能の集約化(COE:Center of Excellence)による、グローバルな事業展開力の強化

✓ NIHON KOHDEN

- 長期ビジョンを実現するために、3つの変革に取り組みます。
- 「グローバルな高付加価値企業への変革」では、海外での高い成長と収益性の 向上、国内での価値提案の高度化と新規事業の育成、グローバルな事業基盤を 活用した新たなビジネスモデルの創出を目指します。
- 「顧客価値を追求するソリューション型事業への変革」では、機器の販売から医療 課題を解決するビジネスモデルへの変革、データから価値を生み出す価値創造 モデルの実現を目指します。
- 「オペレーショナルエクセレンスを軸とするグローバル組織への変革」では、ガバ ナンス体制やサプライチェーンマネジメント体制を確立し、グローバルな事業展開 を支えるための組織機能の強化を図ります。



- 2030年までの10年間を3つのフェーズに分けて、変革を推進します。
- 2021年から始まるPhase Iでは、グローバルに拡大したリソースの統合と融合を 図り、全体最適により生産性を高め、既存事業の収益性を改善します。
- Phase IIでは、成長への投資を本格化します。新たな事業モデルの構築を進めるとともに、既存事業との連携により、統合的な課題解決力の獲得を目指します。
- Phase IIIは、長期ビジョン実現のフェーズです。グローバルな医療課題を解決するソリューションプロバイダとしての地位を確立します。
- この3つのフェーズを着実に実行し、長期ビジョンの実現を目指します。



- 「BEACON 2030」では、単なる売上の拡大ではなく、高い顧客価値を生み出しているか、どれだけ医療課題の解決に貢献しているか、を重視します。
- そこで、価値のあるソリューションを高い生産性で生み出しているかを表す営業利益率、および、グローバル企業に成長しているか、世界各国の医療課題の解決に貢献しているかを表す海外売上高比率を経営指標としました。
- この2つの経営指標を追求することで、高い顧客価値の創造とグローバルな医療 課題の解決に取り組みます。
- 2021年4月から始まる中期経営計画は、来年3月末までに公表する予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に 関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、 業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提 としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因 の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合があります ことをご承知おきください。

> 【担当部署】経営戦略統括部 【連 絡 先】 TEL 03-5996-8003

NIHON KOHDEN